

令和4年3月30日

鶴岡市長 皆川 治 様

鶴岡市議会議長 菅原 一 浩



**市民との意見交換会で出された意見・要望等について（送付）**

本市議会では、昨年度から議会の市民理解の促進と市民からいただいた意見を施策に反映させていくことなどを目的として、4つの常任委員会ごとに「市民との意見交換会」を開催しており、今年度も引き続き開催しました。

市民からいただいた意見・要望等について、正副議長、各常任委員長、広報広聴委員会正副委員長で組織する市民との意見交換会調整会議にて協議した結果、別紙のとおり整理、集約しましたので、参考までお送りします。

なお、この意見等は、市議会ホームページで公表しますので、予めご承知おきください。

- 【総務班】テーマ：中山間地域の活性化・振興策  
日 時：令和4年1月19日（水）13:25～15:28 場 所：木野集落センター 参加者：福栄地域（5集落）自治会長、元地域おこし協力隊員 9人
- 【市民文教班】テーマ：学校と地域の関わり  
日 時：令和4年1月19日（水）13:30～15:00 場 所：市役所 委員会室 参加者：学校運営協議会代表者、市小学校長会会長、市中学校長会会長 6人
- 【厚生班】テーマ：障害者相談支援施設の現状と課題  
日 時：令和4年1月24日（月）13:30～15:30 場 所：市役所 委員会室 参加者：市内障害者相談支援施設関係者 13人
- 【産業建設班】テーマ：本市農業の現状と課題  
日 時：令和4年1月17日（月）15:00～16:50 場 所：市役所 委員会室 参加者：市内農業経営者 6人

### 執行機関に伝えるもの

No.	班名	主な意見等	回答等	分類		
				I	II	III
1	総務	<p>【地域コミュニティに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雪下ろしや排雪、苦勞している。支所長からの提案で、除雪部会の立ち上げをした。</li> <li>除雪ボランティアがあるが、ボランティア募集に困っている。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画部・市民部・温海庁舎</li> <li>除雪に関する各地域の取組事例の情報を共有し、地域の除雪体制構築について検討の必要があるのではないか。</li> <li>市全体の課題として捉え、地域にあった除雪体制への取組に対して支援をしていく。（有償ボランティア、自治会活動の位置づけなど）</li> </ul>
2	総務	<p>【地域コミュニティに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門の事務職がないため、自治会長が変わり、引き継ぎが上手くいかないと、事業が途切れてしまう。</li> <li>人口減で、自治会費が減っている。事業費減で調整し、負担を増やさず、中止せずに、飲食等を減らして対応している。</li> <li>自治会費は、資産割（山）と平等割。山の価値が下がり、調整が難しい。</li> <li>移住者の自治会費は平等割。何にいくら使用しているのかなど、事前に伝えないとトラブルになる。</li> <li>福栄地域協議会「福の里」には市からの予算があった。2年目以降は各自治会からとなり、減少している。</li> <li>若い人が出て行く。・やりたい事はあるが、出来ていない。人手や予算がない。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民部・企画部・温海庁舎</li> <li>自治会長含む自治会運営の担い手の継続性と自治会や地域運営にかかる財源確保が課題。世帯減少に伴う自治会費の縮減による事業継続の困難性も伺え、今後は、自治会自らの取り組みについて、各自治会が連携して検討していく必要があるのではないか。</li> <li>自治会機能の維持は、地域振興や農業振興においても重要であり、行政各部署横断的な検討を要することと考える。（例：近隣集落との事業連携の可能性や市街地町内会等との往来交流の可能性など。こども行事や大人の体験事業など地域外住民との関係づくり）</li> </ul>
3	総務	<p>【地域コミュニティに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ご縁があり移住した。福栄の山は、宝の山。</li> <li>移住してみて、居心地が良くなった。山で生計が立てられる可能性を感じている。</li> <li>移住者でないと出てこない発想がある。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画部・温海庁舎</li> <li>地域活性化の視点で、地域にどんな魅力や宝ものがあるのか掘り下げて調査・整理し、内外に発信または活用できるものがあるのか検討するプロセスは、大事なことと考える。</li> </ul>
4	総務	<p>【地域コミュニティに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の自治体では、地域おこし協力隊の期間終了後に、就業や雇用継続する仕組みがある。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画部・温海庁舎※所管分野、横断的な支援体制が必要</li> <li>期間内での目的達成には困難性がある。期間終了後においても、地域や行政のサポートを担保し、生活できる環境を整えたいうえで、引き続き情報発信、起業活動を担っていただき、活躍していただくことが必要ではないか。（他市の取組事例の調査研究）</li> </ul>
5	総務	<p>【地域コミュニティに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝統芸能の維持は、人手が必要だが、子供がいない。継続するために、市内へ移住した方からの協力でなんとか継続している。継続するために、他集落からも募集している。</li> <li>関川のしな織は、収入・後継者・糸づくりする人などが減っている。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画部・教委※市全体の伝統芸能の継承活動に対する支援策</li> <li>伝統芸能や伝統工芸等々の情報発信とともに、魅力ある素材や2-1の特産物を組み合わせなど、地域振興と産業振興（農業、観光）に繋がる企画検討が必要ではないか。</li> <li>伝統芸能行事の維持継続は、住民の郷土愛の醸成や生きがいなど地域活力となるものである。将来を見据え、住民意識調査など自治会などの取組に対し、行政はどういう支援ができるか、ともに検討していく必要がある。（近隣の集落間での協力によって、相互の事業継続性の可能性を探ることなど。人・仕組み・財源等支援）</li> </ul>

執行機関に伝えるもの

No.	班名	主な意見等	回答等	分類			
				I	II	III	選択理由等（自由記載）
6	総務	【産業振興に関すること】 ・越沢三角そばを復活させて、6次産業へ。今後は、販路が課題。※ 野尻姓が多い、長野県信濃町との交流予定。			○		・農林水産部・温海庁舎※交流人口促進の期待 ▶在来農作物の復活、生産拡大などアフターコロナを見据え、1-15、16との総合的な取組での産業振興と地域振興の企画検討はできないか。16（食文化創造都市プロジェクト等の取組強化）
7	総務	【産業振興に関すること】 ・農地集約や法人化は、メリットや今後どうなるか等が分からない。行政の人がいないと、制度が理解できない。			○		・農林水産部・市民部・温海庁舎※中山間地域直接支払制度の活用 ▶中山間地農業とともに住民の活動は、地域振興においては重要である。国の補助支援制度を活用していくことは、集落機能を維持していくための手法として期待できるため、情報提供や取組への支援が必要と考える。
8	総務	【産業振興に関すること】 ・林道の機能が果たされていない。林道整備が必要。			○		・農林水産部・温海庁舎 ▶森林組合はじめ、行政、営林署(国有林所管)の協議による、路網整備(林道・作業道等)に関する協議が必要である。
9	総務	【高齢者福祉・子育て支援策等に関すること】 ・オンライン診療は、高齢者はよく聞こえないし、よく見えない。今は湯温海の阿部医院から毎月第1、第3金曜日に診療に来てもらい助かっている。 ・訪問診療は、月2回来てもらっている。 ・県の補助で、医療の相談室を作ったが、若い人は来ていない。 ・医療は車で市内に行くことがほとんど。長い目で見ればなんとかなるのかもしれない。			○		・健康福祉部・温海庁舎※高齢者通院の足の確保、負担軽減 ▶地元開業医の診療は、地域住民の安心につながっており、継続されることが必要である。 ▶高齢者のオンライン診療については、相互の言葉の明瞭性や意思疎通が難しい課題があり、改善が望まれる。 ▶高齢者のオンライン診療の構築を含め、鶴岡市SDGs未来都市デジタル化戦略有識者会議でのテーマでもあり、今後の進捗についても注視していく必要がある。
10	総務	【高齢者福祉・子育て支援策等に関すること】 ・山間地や僻地は、移動や買い物など、余計な負担が多い。 ・今は生協が月水金に来てくれる。便利だが、自分で選ぶことが必要では？ ・予約制の「あたたか弁当」300円位は、見護りも兼ねた地域の給食事業。補助があると助かる。			○		・市民部・健康福祉部・企画部・温海庁舎 ▶高齢者への日常生活における支援については、民間の移動販売車の定期的な巡回によって支えられているが、市街地への自由な買い物や通院等ができる仕組みやづくりが求められている。(温海地域のデマンドでの効果や他地域の取組事例など) ▶高齢者への声かけ運動や見守りなど民生分野での支援も地域にとっては大事なこと。係る、定期的な食事弁当程度は、地域性に配慮した支援として検討すべきでないか。
11	総務	【高齢者福祉・子育て支援策等に関すること】 ・18歳位までの子育てに経済的支援が必要。 ・温海全体の出生数が、ここ数年20~30人くらい			○		・教委・企画部・健康福祉部・温海庁舎 ▶保護者の職場通勤や学校通学など、自家用車に係る経費負担など、市街地との格差が広がっていることから、過疎地域や中山間地域に住み続けていくために、保育~児童~高校生に係る支援策の検討が必要でないか。(ニーズ調査) ▶子どもを産み育てられる環境、子どもの居場所づくりなど環境整備の可能性はないのか。 (実態と保護者意識は？経済的支援だけで住み続けられる？高校生の通学補助の増?)

執行機関に伝えるもの

No.	班名	主な意見等	回答等	分類				
				I	II	III	選択理由等（自由記載）	
12	市文	<p>【鶴岡第一中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールを実践している和田中（東京都杉並区）の様子をみると、「人」と「お金」が必要だと感じる。新しい仕組みを作って、人とお金は考慮しないで学校の努力に期待するという形を続ける限り、中学校長方はだいたい反対ではないか。</li> <li>（他中学校長よりメール）</li> <li>・小学校が複数の中学校へ進学する地域にとってはかえって分断することになる危険性がある。慎重に考えていかなければならない。</li> <li>・学校が大変になるようであれば意味がない。</li> <li>・人事に対しての意見や熟議にどれだけ意味があるのか疑問。</li> <li>・現在のところ話題すら出ていない。必要とも感じられない。</li> <li>・小学校の様子を伺い、動きを参考にしながらスタートの準備を始めなければと思い悩んでいる。</li> </ul>				○		
13	市文	<p>【渡前小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域推進活動員（その他の指導員等）に関しては、研修旅費について予算化されておらず、自費参加となっている。積極的に予算化してもらいたい。</li> </ul>				○		
14	市文	<p>【鼠ヶ関小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先に、仕事が増えるばかりという発言があった。</li> <li>・なんとか改善するのが教育委員会。働き方改革に遅れるのでは？土台が無いところは円滑にスタート出来ないのではないかな？</li> </ul>				○		
15	市文	<p>【南波純議員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校であれば実現できる。学区が広くなればなるほど難しくなる（地域の方の学校に対する気持ちの温度差、スケールの違いがある）。教育委員会のサポートが非常に大切。</li> <li>・どういったことをサポートしてほしいか（コミュニティスクールマイスターを派遣等）、予算化してほしいか？</li> </ul>	<p>【鶴岡第一中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶会議であれば予算はそれほどかからないだろうが、自分で動ける人を雇う▶育てるお金が必要だと思う。</li> </ul> <p>【西郷小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶お金ではなく人。メンバーの質を高めれば、おのずと話の内容も深まる。地域づくり、学べる研修が必要。ワークショップ等のハードルが高い。初めての委員に対しての研修があれば参加しやすい。</li> </ul>				○	
16	市文	<p>【鼠ヶ関小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側も、地域との関わりを持たせる工夫が必要なのではないか。</li> </ul>				○		
17	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少期は相談窓口があるが、年齢が上がるにつれて相談できる相手が少なくなる。18歳以上だと相談窓口や居場所がない。現在は各職員の方や学校時代の保護者仲間に相談している現状がある。</li> <li>・切れ目ない支援の必要性。</li> <li>・山形県発達障がい者支援センターは上山市にあるが庄内からは使いにくいので、庄内に気軽にワンストップで相談できる窓口がほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶発達障がい者支援センターは県にはあるが、市にはない。</li> <li>▶設置しなければならないと考える。</li> </ul>				○	
18	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の相談支援事業所では、病院との交渉など限界がある。横須賀市では行政で訪問相談員を配置している（福祉部障害福祉課）。鶴岡市でも事業所と連携してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶コーディネーターなど、全体的に包括し、寄り添うことができる人材をどう育てていくか課題である。</li> <li>▶相談窓口の設置も考えていかなければいけない。</li> </ul>				○	
19	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた職員の自宅待機期間を少しでも短くするため、新型コロナ検査キットを事業所でも利用できるように支援してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶コロナ検査キットへの支援が必要と考える。</li> </ul>				○	
20	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイ、レスパイト入院できる施設が少ない。特に医療ケア児・者や、強度行動障害がある場合など、受け入れ先がない。</li> <li>・家族が休息できる時間が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶「相談支援部会」でも課題に上っている。</li> <li>▶医療的ケア児・者が利用できる社会資源が少ない。強度行動障害の方の通所や受け入れを断られることが多い。幅広い年齢を受け入れ宿泊できる社会資源が増えれば安心して過ごせる体制が作れば良い。</li> </ul>				○	

## 執行機関に伝えるもの

No.	班名	主な意見等	回答等	分類		
				I	II	III
21	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民のグループホームへの理解が低く、良好な関係が築けていないケースがある。</li> <li>発達障害の2次障害としてのひきこもり。</li> <li>近年は大人になってから気が付く場合も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域での周知ができていない現状があると思う。</li> <li>グループホームの方々に防災訓練に参加してもらった事例もある。</li> </ul>		○	
22	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師の人数が減り、地域の情報を集める力が弱くなって地域格差がある。地域によっては相談がないという現状もある。障害者の掘り起こし、正確な実態把握ができていないのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通所できる交通手段がないため利用をあきらめている人もいる。提供できる事業者がない地域もある。地域間でのサービスに格差があるのであれば、現状を調べ対応していかなければいけない。</li> </ul>		○	
23	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に行動援護サービスの事業所がないので困っている。余暇支援もニーズがある。</li> <li>発達障害支援センターがあると助かる。</li> <li>学校以外で過ごせる場が欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動援護サービスは、何故ないのか？</li> <li>「農福連携」に取り組んだが、自分の居場所づくりの難しさを感じた。</li> <li>親の理解も必要である。</li> </ul>		○	
24	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>「8050」問題から「9060」問題へ。ひきこもりが長期間に渡り、親亡き後を心配する家庭が増えている。若年層から高齢に至るまで、切れ目のない支援体制を構築してほしい。</li> </ul>			○	
25	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>深夜に相談の電話が来ることもあり、十分な対応ができず苦しんでいる。</li> <li>緊急のときの対応に困る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談を受ける側が悩んでいるのは大変なことである。</li> </ul>		○	
26	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉タクシー券の対象者以外にも、自分で運転できない障害者は存在するので、支援が必要だ。※精神保健福祉手帳は対象外である。</li> </ul>			○	
27	厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>市や市社協の担当者が短期間で異動すると、専門人材が育たない。人事異動に配慮してほしい。</li> </ul>			○	
28	産建	<b>【農業経営の現状報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス栽培の補助対象品目を拡大して欲しい。</li> </ul>			○	当局へ情報提供し提案する
29	産建	<b>【農業研修者の受入れ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修は可能であるが、独立していくことを考えると教えたことが私達のためにはならない。</li> <li>研修期間の人件費などの課題がある。</li> </ul>			○	当局へ情報を提供し、提案する
30	産建	<b>【将来にむけた課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模化や機械導入による省力化など、採択されても10カ年後の話なので、長期にわたる政策が必要と考える。</li> <li>自分は大規模化を考えているが地域でどうするかが明確になっていない。</li> </ul>			○	今後に向けた検討課題とし当局へ情報提供する

**【参考】 今後、議会として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの**

No.	班名	主な意見等	回答等	分類			選択理由等（自由記載）
				I	II	III	
1	産建	<p>【その他】                      ・国の事業である高収益作物次期作支援交付金等は、東北の冬季間に生産する農家の支援内容となっていないため、一番低い支援金になっているので制度を見直すように要望して欲しい。</p>				○	内容を精査し、意見書提出など検討する